

和歌山市立東中学校

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

調査内容

実施日：平成31年4月18日(木) 実施対象：3年生 6学級 183名

全国学力・学習状況調査は、出題範囲を調査実施学年の前学年までに含まれる指導事項を原則としています。国語・数学の2教科については、今年度よりAB区分がなくなり、「知識」と「活用」の2種類の問題が併せて出題されています。英語調査は今年度初めて実施されました。

教科調査の結果分析より

〈国語の調査結果に見える本校生徒の傾向〉

全国、県の平均正答率と比べると低いものの、正答率はすべての問題が5割を超えている。また、話の流れをつかみ、自分の考えを書くという問題については全国、県の平均正答率を超える結果となっている。

■課題①

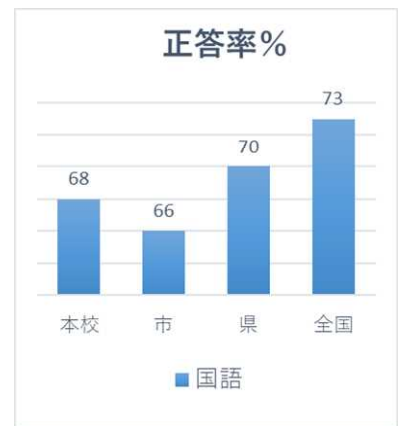
文章の構成や展開の理解が不十分で、内容を要約する力が定着していない。

■課題②

話し合いの話題や方向をとらえる力が不足している。

■課題③

話し合いの中で、相手の発言の意図を読み取る力が不足している。



〈数学の調査結果に見える本校生徒の傾向〉

本生徒は、数学的な技能を要する問題で苦手意識を持っている生徒がいるものの、数学的な知識に関する問題では、高い正答率となっている。

■課題①

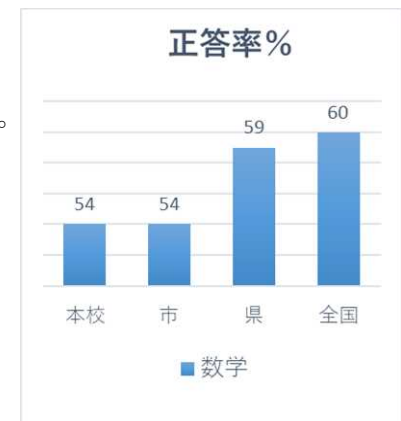
関数関係の理解が不十分である。

■課題②

確率において、すべての場合の数に対する認識が不十分である。

■課題③

数量を文字式を使って表現し、それを使って記述説明することが苦手である。



〈英語の調査結果に見える本校生徒の傾向〉

まとまりのある文章を書くことは苦手ではあるが、Speakingの質問に対し答える問題等は答えることができている。また、基本的な文法問題も正答率が高い。

■課題①

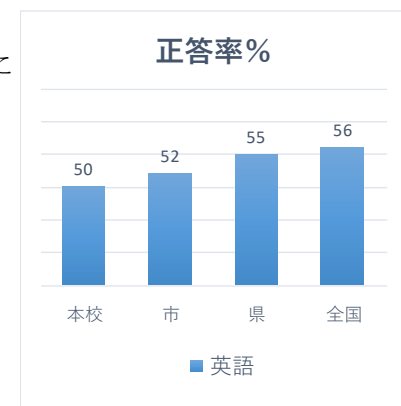
長文に対して、自分の考えを発信する力が不十分である。

■課題②

代名詞への変換において、複数形についての理解が不足している生徒が多い。

■課題③

自己表現力が非常に弱く、繋がりのある文章を書くことが苦手である。

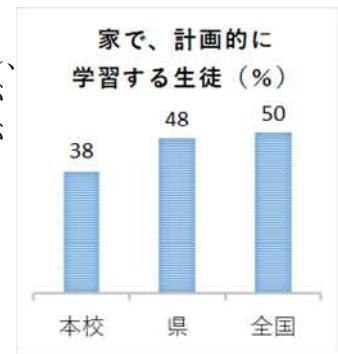


質問紙調査の結果分析より

生徒質問紙調査は、生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。

○各教科に対する興味関心度合いにおいて、全国、県の両方とも上回る教科（数学）と両方とも下回る教科（国語・英語）に分かれており、よく分かる等の授業内容についての理解意識もそれにほぼ伴っている。しかし、数学科の調査結果（正答率）とは結び付いていない。

○自ら計画的に家庭学習をする生徒の割合は全国、県より低い。しかし、授業以外での学習時間については、それなりに確保されている生徒が多い。反面、日頃から授業以外で家庭学習等を全くしていない生徒が全国、県より大幅に多くなっていることが課題である。



○普段、読書を全くしない生徒の割合が高く、読書への関心が低い。

※規則的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）を心掛けましょう。
 ※携帯やゲームに費やす時間を減らし、家庭学習や読書の時間をつくりましょう。

調査結果を受けて、本校が具体的に取り組んでいくこと

〈魅力ある授業づくりと学力の定着・活用に向けて〉

- 教科への関心意欲を高めるように、教科会を行ったり、各担当が研修会等に参加しスキルアップに取り組んでいく。
- ICT等の利用も含めて、授業の導入や授業の展開、振り返りまで生徒が意欲的に取り組めるように指導方法の工夫・改善をしていく。
- 既習内容の定着を確認しながら、それらを活用する学習内容も取り入れていく。

〈学習習慣の定着に向けて〉

- 学習内容が分かる楽しさを感じられる授業を心掛けながら、自ら取り組むような宿題の提示をしていく。
- 携帯やゲームの時間を自己管理できるように家庭と連携・協力し、家庭学習の手引きなどを使って、学習の仕方を指導していく。
- CULTEK等を活用し、学習習慣の定着を計っていく。

〈読書の推進に向けて〉

- 第1、第2図書室の開放を今後も継続して行い、生徒会の図書委員会を中心に図書室が魅力的な場所になるよう工夫した運営に取り組んでいく。
- 授業においても、国語科だけでなく各教科での言語活動の充実に取り組んでいき、その過程で図書室の利用を促し、読書への関心を高めていく。